

「無鄰菴庭園」の紹介

今回は、前回紹介した「平安神宮神苑」の近くにある「無鄰菴庭園」を紹介したい。この庭園は、観光タクシーが必ず案内するという多くの歴史的要素を持った庭園（国の名勝指定）で、戦前の昭和16年（1941）に京都市が管理するようになってから70年弱経過した現在でも、年間訪問者がわずかに約4万人という京都の隠れた名所の一つである。その概要を紹介するので季節を問わず訪問していただきたい。

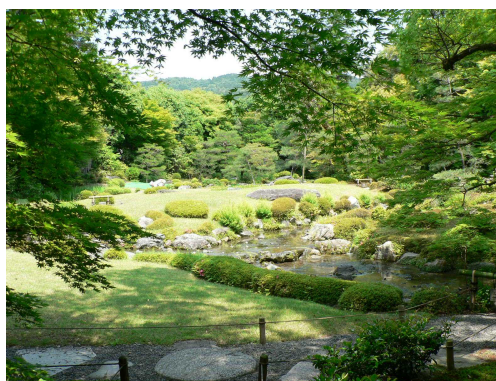
1) 当時宰相を務めた山縣有朋の別邸として建造

山縣は生涯8ヶ所に自分で設計指揮した別宅を建造しているが、この「無鄰菴」は明治29年（1896）に建造した5番目の別宅である。造園を趣味とする山縣は、海外見聞で吸収した洋式庭園の特徴を生かし、従来の日本庭園に替わる近代庭園を目指して、当時新進気鋭の庭師小川治兵衛を起用・指導して造営した京都最初の近代洋式庭園である。

この造庭の鍵となったのは、西大津から山科疏水を経由して蹴上台地に運ばれた疏水の水を鉄管で引水したことである。これを借景となる東山連峰の南禅寺山からの水として3段の滝として庭の隅に落として川とし、傾斜地を利用して芝生で敷き詰められた山並みの間を縫い、川幅を広げながら海に向かってせせらぎの流れを演じている。周辺は樹木で覆われ、苔が配置されており、都会の中とは思えない自然環境が作られている。



疏水の水が導入される三段の滝



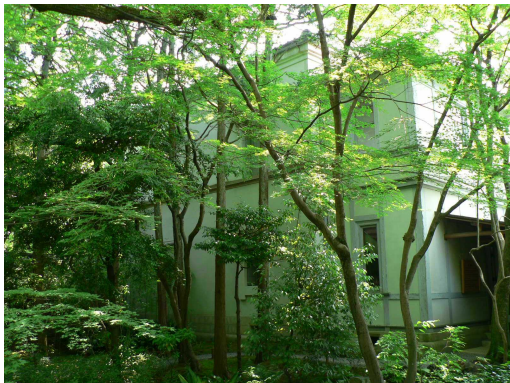
僅かに見える東山に向かって拡がる庭園

2) 小川治兵衛の近代庭園群がここから始まる

狭い戸口を入ると、右奥に煉瓦づくりの2階建て洋館があり、樹木の中に収まっている。この1階に京都唯一の「小川治兵衛記念室」があり、山縣有朋の略歴、小川治兵衛の略歴、代表的な7つの庭園（碧雲荘、清水家十牛庵、織宝苑、円山公園、對龍山荘、平安神宮、無鄰菴）の写真とそれぞれの解説板が展示されている。

この小川治兵衛家は「植治」と呼ばれ、七代目の植治が蹴上～南禅寺にある疏水の流れの周辺に数多くの近代庭園を作庭している。これらの庭園群作庭の出発点が無鄰菴だとい

われている。最盛期の七代目の頃は、約200人の庭師を抱えていたと聞く。



敷地の隅に建てられた赤煉瓦の洋館



明治31年に建設された洋館内部

洋館内部についてはフラッシュ撮影禁止となっており、有名な「無鄰菴会議」が開催された洋館2階の様子を紹介できないのが残念である。

3) 無鄰菴へのアクセスの方法

交通機関としては、地下鉄「蹴上駅」を起点とするのが一番便利である。歩いて10分くらいのところに「無鄰菴」、「琵琶湖疏水記念館」、「インクライン公園」などがあり、春の季節には「岡崎桜回廊十石舟めぐり」が楽しめる。「平安神宮神苑」も歩いて行ける距離にある。

この周辺で、疏水関連施設を半日コースまたは日帰りコースで回ることをお奨めしたい。今回は、無鄰菴の一部の紹介に留まったが、より詳しい内容を下記ホームページに紹介しているので読んでほしい。

http://www.geocities.jp/biwako_sosui/

琵琶湖疏水の観光開発を推進する 近代京都の礎^{いしずえ}を観る会